

“ぎゅっと”カーよしだの活用による、子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

事業の基礎情報

実施主体	吉田町地域公共交通協議会
事業実施地域	静岡県吉田町（主たる地域）・牧之原市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ こども・子育て・ 商業・農業
共創パートナー	吉田町（企画課、福祉課、こども未来課）・ 有限会社平和タクシー ・ 東海タクシー株式会社 ・ しずてつジャストライン株式会社 ・ 株式会社アイシン CSSカンパニー ・ 名古屋大学環境学研究科地域戦略研究室 ・ 株式会社イズハラ・ソリューションズ ・ 社会福祉法人 吉田町社会福祉協議会 ・ 吉田町教育委員会 ・ 静岡県立榛原高等学校 ・ 吉田町商工会
運行形態	AIデマンド交通
運行主体	有限会社平和タクシー、東海タクシー株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

■ 地域課題：吉田町の公共交通は、高速バス・路線バス・タクシーと、AIデマンド型乗合タクシー“ぎゅっと”カーよしだ（以下、“ぎゅっと”カー）（R5年10月から実証実験開始）で担われている。しかし“ぎゅっと”カーは未だ認知や利用は限定的であり、バスについてはバス運転手の確保の難しさ、コロナ禍の影響などにより路線の減便や縮小が懸念されており、公共交通でのお出かけに対するストレスが高い状況にある。また、既存の路線バスだけでは町内を十分にカバーできていなかったため、住民の移動手段は自家用車の割合が高い。自家用車を保有しない高校生等子どもや高齢者の移動手段が少なく、高齢化の進展による交通事故リスクや交通弱者の住みにくさが増すことが危惧される。「まちづくりに関する住民意識調査」（2022年）の結果では住みにくい理由第1位に、いずれの年代でも「公共交通機関の便が悪い」が上っている。

■ 事業目的：まちづくりと連携した面的な交通ネットワークを構築し、自家用車に頼らず、町内どこでも利用できる公共交通サービスを実現する。特に、子どもと高齢者が気がねなくお出かけできるまちをめざす。

（事業の概要）

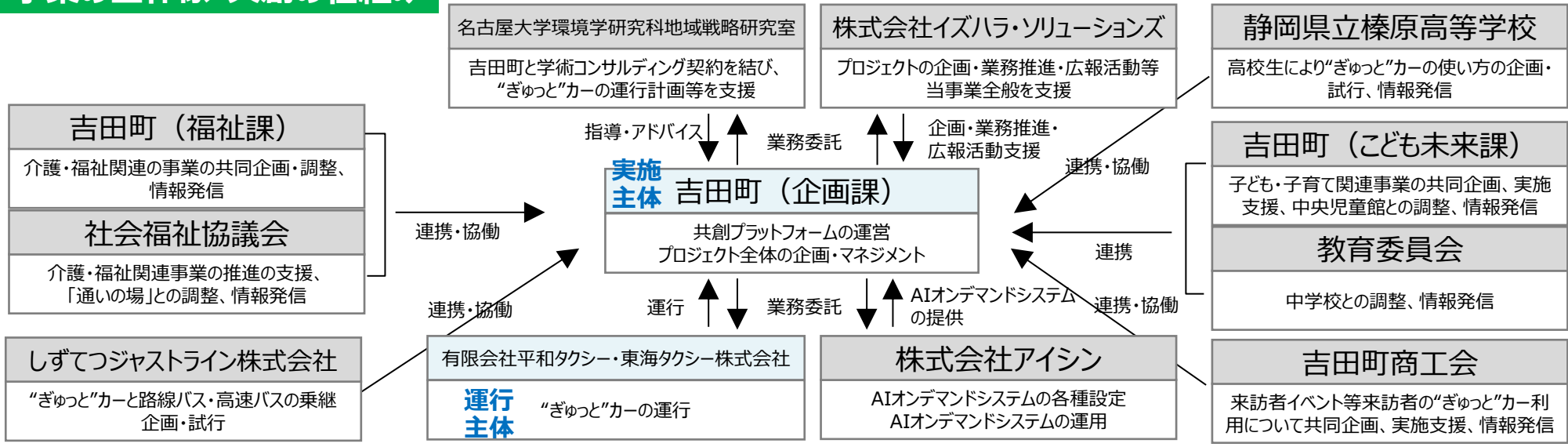
- ① 吉田町（企画課、福祉課）、社会福祉協議会等が連携・協働し、“ぎゅっと”カーを高齢者の「通いの場」への移動手段として定着させる。また、高齢者のフレイル予防/お出かけ促進に、“ぎゅっと”カーを活用した「大人の遠足（仮）」などを企画し高齢者が“ぎゅっと”カーに慣れ、暮らしの中に取り入れる機会を創出し、日常の移動手段として利用できるようにしていく。
- ② 吉田町（企画課、こども未来課）、教育委員会、榛原高校等が連携し、高校生の通学や子どもの塾等への移動の現状把握を行い、子どもの移動における“ぎゅっと”カーの効果的な活用方法を見出し、子供向けパンフレットを作成し周知と利用を促す。また、公民館イベント等の移動手段として利用する機会を設け、子どもとその家族が“ぎゅっと”カーに慣れ、暮らしの中に取り入れるきっかけづくりを行う。
- ③ 吉田町（企画課）、商工会等と連携・協働し、県営吉田公園で開催されるイベントで町外からの来訪者による“ぎゅっと”カー利用を企画し、テスト運行する。観光客など吉田町への来訪者の二次交通となるための課題を明確にし、商業や観光の活性化に貢献できるしくみを検討する。
- ④ 吉田町（企画課）、タクシー事業者2社、しずてつジャストライン株式会社が連携し、“ぎゅっと”カーからバスへの乗継ぎを強化し、公共交通による吉田町から町外への移動のストレスを軽減する。

“ぎゅっと”カーよしの活用による、子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

吉田町（企画課）が核となり、関係者の特性を生かした連携・協働を行う。“ぎゅっと”カーは、タクシー事業者2社が運行を行い、アイシンがAIデマンドシステムを設定・提供する。しずてつジャストラインは“ぎゅっと”カーとバスの乗継強化でのオペレーション検討や情報発信を担う。吉田町福祉課と社協は介護・福祉関連、吉田町こども未来課と教育委員会は子ども関連、榛原高校は高校生による企画、商工会は町外からの来訪者イベント等、それぞれの得意分野で地域のリーダーや住民との調整や情報発信、企画のブラッシュアップを協働する。このように多方面と連携・協働することにより、公共交通とまちづくりとの関連性を高める。

（実証事業により見込まれる効果）

- ・高齢者の外出意欲と外出頻度の向上。評価）“ぎゅっと”カー利用前後の改善度がR5年度を上回る。
- ・子ども世代の“ぎゅっと”カーへの認知が拡大し、移動手段の1つとなる。評価）“ぎゅっと”カー利用前後で、今後の利用意向が生まれる。
- ・吉田町への来訪者の活動量が増え、地域への経済効果が期待できる。評価）来訪者イベントでの“ぎゅっと”カーの運行回数。
- ・“ぎゅっと”カーとバスの乗継により移動しやすくなり住みやすくなる。評価）“ぎゅっと”カーのバス定期券割引利用者数。

“ぎゅっと”カーよしだの活用による、子どもと高齢者が“お出かけ”しやすい移動環境づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

【凡例】 ■：補助対象期間

→：実施／試行

.....▶：調査・企画・準備

★：地域公共交通協議会の開催

※ 2月以降、実証実験は自己負担で継続

	2024年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年1月	2月	3月	4月以降
全体		★	実証実験			★				★	実績報告 (令和7年1月末 日分まで)		令和7年度も実証実験は継続する予定。 内容は、令和6年度の 結果を踏まえ見直す。
・吉田町（企画課） ・名古屋大学 ・イパル・ソリューションズ	高校生・子どもの移動について把握		子ども／高齢者対象企画の実施				バス乗継強化策の試行						
			・子ども/高校生/高齢者/来訪者イベントの企画、調整 ・運行計画の見直し（バス乗継強化等）				来訪者イベント の実施						
			・利用データ等の収集・分析、住民懇談会、利用者アンケート調査等の実施								・実証実験まとめ		
・タクシー事業者	セダンにて運行		ジャンボにて運行		見直し案の運行テスト								
・しずつジャストライン	バスへの乗継強化策の進め方検討		情報発信				バス乗継強化策の試行						
・アイシン			デマンドシステムの見直し、運行テスト										
・吉田町（福祉課） ・社協	高齢者対象企画の進め方の検討		高齢者対象企画の実施										
			高齢者対象企画、調整、情報発信										
・吉田町（こども未来課） ・教育委員会	高校生子どもの移動についての把握 子ども対象企画の進め方検討		子ども対象企画の実施										
			子ども対象企画、調整、情報発信										
・榛原高校	高校生の移動についての把握		高校生による企画等の進め方検討				企画立案、試行、情報発信						
・商工会			来訪者イベントの企画、調整		情報発信			来訪者イベント の実施					

(補助事業実施後の予定)

“ぎゅっと”カーは、吉田町地域公共交通計画（2022年3月策定）に位置づけられた取り組みであるため、この計画に沿って、令和7年度まで実証実験（21条申請）を行い、その結果を踏まえ令和8年度から本格運行（4条申請）の予定。
資金面では、吉田町財政計画に位置付け、運賃収入等と町負担をベースに、フィーダー系補助金等を活用し継続する。
また、子育て支援、高齢者のお出かけ支援の視点から今後は関係部署と、企画の連携・協働に加え費用分担についても検討していく予定。